

福祉 おおさか

9月号
(558号)

社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会 常務理事 酒井喜正
〒542-0065 大阪市中央区中寺1-1-54 大阪社会福祉指導センター内
TEL.06-6762-9471 FAX.06-6764-5347
<http://www.osakafusyakyo.or.jp>
定価1部50円 年600円(郵送料別)

主要記事

4~5面 福祉サービス評価センター事業
ご存知ですか?サービス評価の活用方法
6~7面 施設通信 児童施設部会のひと夏

22年度府当初予算 切実な17項目を重点要望

府社協は、平成22年度大阪府当初予算に対する重点要望をとりまとめ、8月27日橋下徹府知事あてに市町村社協連合会・民児協連合会・施設正副部会長会議4者連名で17項目の要望書を提出しました。

はじめに、梶本府社協会長より「府民の福祉ニーズに対応した福祉充実のため是非とも必要な財源は確保していただきたい」と要望しました。

続いて酒井府社協常務理事、山本市町村社協連合会会长、羽原府民児協連会長、三上施設経営者部会副会長から、重点事項についての意見、要望を行いました。

大阪府福祉部から「厳しい財政事情だが、要望内容を重く受け止めて検討してまいりたい」と回答があり、それぞれの項目についても担当課長から詳しく回答がありました。

平成21年度 大阪府社会福祉大会

—福祉と共生のまちづくりをめざして—

日 時: 平成21年11月25日(水)
13:30~16:00
会 場: 大阪国際交流センター
大ホール: 1000名
(大阪市天王寺区上本町8丁目)

■第1部 式典
■第2部 講演
テーマ 明るく、楽しく、そして諦めない



photo:Satoshi Toge

講 師: 辻井いつ子さん

(日本人初の快挙 ヴァン・クリバーン国際ピアノコンクールで優勝されたピアニスト辻井伸行さんの母)

(※府民の方の参加ご希望は府社協大会係へご連絡ください)

市民委員関係 1項目

①民生委員活動実費弁償費の必要な予算額の確保と地方交付税単価を実態に見合った引き上げを国に要望。

市町村社協 4項目

①小地域ネットワーク活動推進事業の継続に伴う交付金増額、②コミュニティイソーシャルワーカーの中学校区1名配置、③日常生活自立支援事業の補助金増額、④生活福祉資金貸付窓口の事務費確保。

要望内容

大阪府社協関係 3項目

①日常生活自立支援事業について、利用者増加に応じた補助金増額と国に対する抜本的制度見直し、②生活福祉資金貸付制度の見直しによって見込まれる更なる対象者の増大に対し運営体制整備、③社会福祉法人が実施する社会貢献事業の新たな運営費補助の確保。

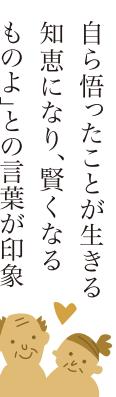
施設関係 9項目

①福祉人材の確保と定着対策の強化、②社会福祉施設の運営費級地格差是正、③社会貢献事業の新たな運営費補助、④軽費老人ホーム・ケアハウスに対するスプリンクラー整備

何とも肩身が狭い。高齢者は、もつと存在感をもつて暮らすべきだと思う▼日本初の女性国會議員故加藤シズエ氏が百歳となりました。12年前の対談の中の「何でも美味しく食べ、愚痴を言わずよく喋ること。最も大事なのは、1日10回感動すること。大学の講義より、色々ないことを見たり聞いたり、体当たりの体験で高齢者と呼ばれる身には

⑤児童養護施設等で生活する高校生の課外クラブ活動に対する補助制度の創設、⑥児童養護施設等で生活する高校生の課外クラブ活動に対する補助制度の創設、⑦障がい者福祉サービスの報酬単価改善や地域活動支援セントラル運営補助金の創設等充実強化、⑧新型インフルエンザで休業した通所施設等に対する財政支援、⑨施設職員へのメンタルヘルス対応の充実。

なお、各要望ごとに文書で回答が示され、今後の福祉施策について公民協働の新たな展開へ結びつくよう、引き続き働きかけをしていきます。



焦点

9月は「敬老月間」。日本の平均寿命が男女共に更新されたことは喜ばしい

が、その一方で少子高齢化と声高に呼ばると、後期高齢者と呼ばれる身には何とも肩身が狭い。高齢者は、もつと存在感をもつて暮らすべきだと思う▼日本初の女性国議員故加藤シズエ氏が百歳となりました。12年前の対談の中の「何でも美味しく食べ、愚痴を言わずよく喋ること。最も大事なのは、1日10回感動すること。大学の講義より、色々のことを見たり聞いたり、体当たりの体験で高齢者と呼ばれる身には

ものよ」との言葉が印象に残っている▼高齢者が増加する中、それぞれが培つた宝や、持てる力をもつと活かせれば、昨今の乾いた社会も潤うのではないか。そうした取り組みの促進に期待する▼今年4月、厚労省は介護職員待遇改善に約4千億円を予算化したが、決して十分とは言えない。常に現場の実情を把握し、更なる待遇向上をと願う。高齢者の安心安全社会は、傍らで支える介護者の心身のゆとりがあるこそ生まれることは言うまでもない▼「敬老」とは先輩の老いへの同情ではなく、敬う心にほかならない。(智)

ひろば

安心と安全の福祉のまちづくりを

大阪府社協 地域福祉部

TEL.06(6762)9473 FAX.06(6762)9487

てを支える地域の状況を述べ、主任児童委員の役割を「つなぐ」という言葉で表現しました。

しかし「関係機関と主任児童委員の顔と名前が一致する関係にはなっていないなど制度が定着していない現状も見られる」と問題点を挙げ、「日々の活動の中で、活動が広がっていく」と訴えました。

また、活動の活性化に向けて「民児協内部における連携の強化や地域の特性を活かした活動の立ち上げ、地域住民や関係機関との連携による活動の持続が重要であり、それが、国の施策に反映されるような大きな力になる」と、離乳食の配食サービスを例解している主任児童委員ならではの気づきと発想による新たな活動の立ち上げの重要性が強調されました。

参加者からは「民生委員児童委員と協力して活動していきたい」「ハンドブックに自分の経験書き足していくことで厚みをつけたい」という声が寄せられました。

講演では「空き地や広場の消失によって子育て中の親子が自然に出会える場所がなくなっています。主任児童委員が、地域で子育てる。主任児童委員が、地域で子育てる。サロンやサークルで、親子をつなげる」と現在の子育てを支える地域の状況を述べ、主任児童委員の役割を「つなぐ」という言葉で表現しました。

しかし「関係機関と主任児童委員の顔と名前が一致する関係にはなっていないなど制度が定着していない現状も見られる」と問題点を挙げ、「日々の活動の中で、活動が広がっていく」と訴えました。

また、活動の活性化に向けて「民児協内部における連携の強化や地域の特性を活かした活動の立ち上げ、地域住民や関係機関との連携による活動の持続が重要であり、それが、国の施策に反映されるような大きな力になる」と、離乳食の配食サービスを例解している主任児童委員ならではの気づきと発想による新たな活動の立ち上げの重要性が強調されました。

参加者からは「民生委員児童委員と協力して活動していきたい」「ハンドブックに自分の経験書き足していくことで厚みをつけたい」という声が寄せられました。

「主任児童委員活動の活性化と発展のために」 ～地域をつなぐ親子の出会いの場を～

大阪府民児協連

府民児協連は、「主任児童委員活動ハンドブック2009年版」の理解を深めることを目的に、7月23日、大阪市立こども文化センターで研修会を開催しました。講師には、編集協力者の松原康雄氏（明治学院大学副学長・全国民生委員児童委員協議会連合会児童委員活動推進部会委員）を迎え、約330人の参加がありました。

講演では「空き地や広場の消失によって子育て中の親子が自然に出会える場所がなくなり、主任児童委員が、地域で子育てる。主任児童委員が、地域で子育てる。サロンやサークルで、親子をつなげる」と現在の子育てを支える地域の状況を述べ、主任児童委員の役割を「つなぐ」という言葉で表現しました。

しかし「関係機関と主任児童委員の顔と名前が一致する関係にはなっていないなど制度が定着していない現状も見られる」と問題点を挙げ、「日々の活動の中で、活動が広がっていく」と訴えました。

また、活動の活性化に向けて「民児協内部における連携の強化や地域の特性を活かした活動の立ち上げ、地域住民や関係機関との連携による活動の持続が重要であり、それが、国の施策に反映されるような大きな力になる」と、離乳食の配食サービスを例解している主任児童委員ならではの気づきと発想による新たな活動の立ち上げの重要性が強調されました。

講演後は、子ども家庭センター職員との情報交換を行い、虐待のケースについて「活動するためにもつと情報共有ができるのか」「通告すると裁判所に出廷する必要があるのか」などの質疑を通して、虐待を発見した時の役割や活動の理解を深めました。



「発達障がいの理解を」 ～主任児童委員ブロック別研修会開催～

府民児協連では、活動や役割の理解をさらに深めるため、ブロックごとの研修会の開催を今年度予定です。

7月27日、トップバッターを切った河北ブロック。大東市立総合福祉センターで、中央子ども家庭センターとの共催により「発達障がいについて理解を深める」と題した研修会に、約80人が参加しました。

講演後は、子ども家庭センター職員との情報交換を行い、虐待のケースについて「活動するためにもつと情報共有ができるのか」「通告すると裁判所に出廷する必要があるのか」などの質疑を通して、虐待を発見した時の役割や活動の理解を深めました。

「あゆむ」の今井司代表（障がい者支援施設サニースポット施設長）は「連絡会を通して他施設への理解が深まり、種別意識の壁が薄ってきた」と言います。インフルエンザが流行った時も会員調査を行い、施設全体としての意見をまとめて市に届けました。

「たとえば保育園では、発達障がいや学習障がいの子の問題が顕在化してきており、そんなときは障がい者施設の専門性が役立ちます」。一人の子どもを通して見た家族に、介護や生活の問題が隠れていることも少なくなく、「いろいろな施設が関わることが必

要になってきており、そのことで施設の存在の総合的な底上げと、専門性に幅が生まれてくる」と実感しています。

しかしながら、まだまだ「あゆむ」の知名度は低いことから、今年度新たな事業を計画しています。ひとつは9月に実施の合同就職説明会。求職者の施設ブースと併せ、「あゆむ」のPRコーナーも設置。秋からは地区福祉委員会や老人福祉センター、子育て支援の拠点「つどいの広場」等に出前相談を開始し、「相談事業には上がつてこない悩みをこちらから」という姿勢で動き、解決のために施設や機関につないでいきたいたいとのこと。

事業の柱となっている「身近な福祉相談」事業は、「あんしんねつとあゆむ」の名称で相談体制を組み、週1回、西武百貨店での相談日には、保育、児童、障がい、高齢各分野の施設スタッフが応じています。

「あゆむ」の今井司代表（障がい者支援施設サニースポット施設長）は「連絡会を通して他施設への理解が深まり、種別意識の壁が薄ってきた」と言います。インフルエンザが流行った時も会員調査を行い、施設全体としての意見をまとめて市に届けました。

「たとえば保育園では、発達障がいや学習障がいの子の問題が顕在化してきており、そんなときは障がい者施設の専門性が役立ちます」。一人の子どもを通して見た家族に、介護や生活の問題が隠れていることも少なくなく、「いろいろな施設が関わることが必

要になってきており、そのことで施設の存在の総合的な底上げと、専門性に幅が生まれてくる」と実感しています。

しかしながら、まだまだ「あゆむ」の知名度は低いことから、今年度新たな事業を計画しています。ひとつは9月に実施の合同就職説明会。求職者の施設ブースと併せ、「あゆむ」のPRコーナーも設置。秋からは地区福祉委員会や老人福祉センター、子育て支援の拠点「つどいの広場」等に出前相談を開始し、「相談事業には上がつてこない悩みをこちらから」という姿勢で動き、解決のために施設や機関につないでいきたいたいとのこと。

事業の柱となっている「身近な福祉相談」事業は、「あんしんねつとあゆむ」の名称で相談体制を組み、週1回、西武百貨店での相談日には、保育、児童、障がい、高齢各分野の施設スタッフが応じています。

連載②

地域貢献委員会の実践に注目

実践事例
高槻市民間社会福祉施設連絡会

社協と福祉施設の協働・連携を

5年目を迎える節目としてこれまでの時代に応えていく活動を考えていこうと、11月17・18日の2日間、シンポジウム＆展示・授産製品の展示即売を企画中。

連絡会の事務局を担う高槻市社会担当者の山田さんは、「連絡会があることで、地区活動計画においていろいろな施設とのつながりが組み立てられ、活動の展開が拡がった」と言います。今井代表も「地域と施設を結ぶ社協はいわば接着剤。施設だけでは展開できない」と、一人三脚によるまちづくりの展開に期待を寄せていました。

要になってきており、そのことで施設の存在の総合的な底上げと、専門性に幅が生まれてくる」と実感しています。

しかしながら、まだまだ「あゆむ」の知名度は低いことから、今年度新たな事業を計画しています。ひとつは9月に実施の合同就職説明会。求職者の施設ブースと併せ、「あゆむ」のPRコーナーも設置。秋からは地区福祉委員会や老人福祉センター、子育て支援の拠点「つどいの広場」等に出前相談を開始し、「相談事業には上がつてこない悩みをこちらから」という姿勢で動き、解決のために施設や機関につないでいきたいたいとのこと。

事業の柱となっている「身近な福祉相談」事業は、「あんしんねつとあゆむ」の名称で相談体制を組み、週1回、西武百貨店での相談日には、保育、児童、障がい、高齢各分野の施設スタッフが応じています。